

## **X. 学生の活躍**

### **X-1. 経済学検定試験9連覇**

#### **X-1-1 (1) 経済学検定試験大学対抗戦での連覇記録の更新**

創価大学経済学理論同好会（以下、理論同好会）は2011年12月に行われた経済学検定試験（以下、ERE）大学対抗戦で9連覇を達成した。これまで、2007年12月の大学対抗戦から連覇を達成し続けている理論同好会であるが、今年度は運営方針を大きく変えている。昨年度までの数年間は、どちらかという先輩が先頭に立って一生懸命勉強し、後輩がそこに付いていくという形式を採用していた。そうした活動形態は、大学院進学希望者が多く存在し、経済学に対する理解度が元々高いメンバーが揃っている状況であれば問題ないかもしれない。しかし、部員に占める就職希望者・資格取得希望者の割合が増えるにつれ、個々の目的に沿った運営方法を考え、各々が主体的に勉強に取り組める仕組みが必要となる。今年度はそうした点をふまえ、(1) 毎週行われる勉強会の回数の増加、(2) 勉強会の運営方法を担当者制に変更、(3) 疑問点の洗い出しと徹底した議論、を意識して活動を行った。その結果、冒頭で述べた大学対抗戦9連覇という最高の結果を達成したのである。また今回の結果で特徴的であったのは、同じ点数を獲得した成績上位4名の中に2年生と3年生が含まれている点である。突出した力を持つ上級生に引っ張られるのではなく、幅広い世代の活躍により連覇を達成したことに大きな意義があると思われる。

#### **X-1-1 (2) 同好会の活動と就業力**

理論同好会の部員は、様々な分野に関する勉強会とそこでの活発な議論を通じて、日々経済学に対する理解を深めている。そうした活動に積極的に取り組むことにより、最近では大手企業（経営コンサルタント会社、外資銀行）に就職する部員が増えてきていることに注目したい。何人かの部員にヒアリングしたところ、就職活動において役立った力として挙げられたのは論理的思考力、討議推進力及び数量的分析力といった能力である。

1点目の論理的思考力については、経済理論を学ぶという同好会の目的に即して活動をする中である程度身に付くものであると考えられるが、それに加えて物事を論理的考えるメンバーとの活発な議論が各自の思考力により一層磨きをかけたようである。そのようにして培われた論理的思考力はエントリー・シートの作成やグループ・ディスカッションの場で役に立ち、相手に対して堂々と自分の意見を述べられるという自信を与えてくれる。



2点目の討議推進力は、グループ学習を通じて培われた能力である。普段の勉強会を担当者制にすることにより、担当者になった場合には責任を持って準備に取り組むこと、また説明を受ける側である場合は真摯に説明を聞き意見を述べる姿勢を心掛けることが徹底されている。これにより、担当者が一方的に話をする形態から脱却し、聞き手から多くの質問が発せられ、緊張感を伴った勉強会が開催されることとなった。このような意識の下で継続的に活動を行うことで部員間の信頼度が増し、チームとしての一体感を生み出すことに繋がる。そしてERE直前には、大学対抗戦優勝という目標に向かい部員が一丸となって集中的に勉強に取り組むことになるが、その際にも普段の活動で築かれた相互の信頼関係が大きな役割を果たしてきたのである。

3点目の数量的分析力は、講義を通じて習得した統計学・計量経済学に関する知識を勉強会でさらに深め、それを専門ゼミでの研究活動で活用したことにより培われたようである。理論同好会における勉強会では理論的内容の学習に力が入れているため、そこで得た知識をデータの収集や解析に生かす機会に欠けてしまう。しかし、ほぼ全ての部員が所属する専門ゼミがそうした知識を生かす格好の場となっているのである。このようにして理論同好会での活動と学部（専門ゼミ）での活動が密接に関係しており、数量的分析力の会得に繋がっていると考えられる。

最後に、自ら学習したことがどれだけ身に付いているかを客観的に測るEREは、経済学部生にとって就職活動を行う上で無視できない存在である。語学や簿記等の資格試験を受験する学生は数多く存在するが、EREの受験者数はこれらの資格試験と比べると少ないのが現状である。その主な原因として企業側の認知度があまり高くないことが

挙げられる一方で、E R Eで好成績を修めるには継続的な学習の積み重ねと経済理論を理解するための思考力が必要であることも挙げられる。言い換えれば、E R Eで好成績を修めることは大学時代を通じて真摯に学問に取り組んだという証を得ることを意味する。このことは、理論同好会のメンバーに限らず経済学部生全員が認識しておくべきことである。



### X-1-(3) E R E受験者数の拡大に向けて

現在経済学部では、E R E受験者数を増やす試みを行っている。具体的内容としては、創価大学構内で受験する際の受験料無料化、掲示・Webを通じた受験のアナウンス、そして単位認定制度を通じて、E R Eの意義を周知させ受験を促している。これらの取り組みを行う以前は受験者人数が10名程度であったのに対し、上記の対策実施後の2012年12月には39名の受験者を確保するに至った。今後は、更なる受験者数の増加を目指すと共に、学生が継続的に試験を受け成績の向上に努める意欲を引き出す仕組みが必要となる。学部の講義で学んだ内容をベースにE R Eに向けた学習に取り組むことで、経済に関する幅広い知識の習得と論理的思考力の養成が期待される。さらに好成績を修めることができれば、大きな自信を手に入れることとなり、また就職活動におけるアピールポイントを得ることになる。

＝参考資料＝

- ・ 『「世界基準の授業」をつくれ～奇跡を生んだ創価大学経済学部 I P～』川島直子・福田素子共著 時事通信社 2012年
- ・ E R E 経済学検定試験 HP <http://www.ere.or.jp/index.html>

## X-2. 八王子市ふれあいトーク4連覇

2011年12月4日(日)に、八王子市学園都市センターで、創価大学や法政大学、中央大学、工学院大学など10大学23チームのうち、書類選考を通過した8大学8チームによる「市政提案部門：学生と市長とのふれあいトーク」が行われ、本学経済学部の西浦昭雄ゼミが優秀賞(第1位)を獲得した。

八王子市長に直接市政を提案するため、実現化の可能性が高いこの取り組みは、大学コンソーシアム八王子が主催する「第3回学生発表会」の一環として行われ、工業デザイン、福祉、ITなどの分野から応募を受けた。



西浦ゼミ(榎間いつみさん・3年、池田宏治さん・4年、福田喜美子さん・4年、松本亜実さん・4年、沢尻記子さん・3年、田中香保里さん・3年)は、「留学生と地域をつなげよう!地域国際交流プロジェクト」というテーマで、「日本人学生が「つなぎ役」となり、留学生と地域住民との交流会を企画し、行政がそれをサポートすることで、八王子地域全体で留学生を大切にしていこう」との提案をした。この提案が優秀賞に選ばれ、これで、西浦ゼミとして「学生と市長とのふれあいトーク」は、4連覇となった。黒須隆一八王子市長からは、「具体的な取り組みとして参考になった。是非とも進めていきたい」とのコメントがあった。



提案するにあたり、学生たちは留学生や地域住民への調査、国際交流関係 16 団体に訪問インタビューを実施したことに加えて、「つなぎ役」となって、企業、農家、スポーツクラブ、高齢者団体と留学生の交流会を 5 回にわたって実現するなど、積極的に取り組んだ。また、提案だけで終わらず、継続的に活動するために、昨年の大会で無縁社会へのアプローチとして高齢者との交流を提案したゼミ内の 4 年生と合同で、創大内に「地域コミュニティ・プロジェクト」というサークルを立ち上げ、活動を開始している。

今回の提案を行った学生の榎間さんは、「西浦先生や先輩、仲間、協力していただいた方々に本当に感謝しています。このプロジェクトを通し、留学生の中に飛び込むことで、私たちが何事にも一生懸命な留学生から刺激を受けました。これからもこの活動を広げていきます。」と語った。